

令和6年6月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	6,010	9,385	4,706	4,679	37	41
2 千 石	4,223	6,917	3,469	3,448	27	25
3 内 山	5,847	8,054	4,321	3,733	△ 2	△ 4
4 大 和	3,693	6,719	3,342	3,377	0	△ 7
5 上 野	7,563	15,401	7,534	7,867	△ 9	11
6 高 見	7,518	13,383	6,359	7,024	5	2
7 春 岡	7,231	11,134	5,898	5,236	21	15
8 田 代	11,347	21,872	10,489	11,383	△ 11	△ 7
9 東 山	10,349	18,920	9,235	9,685	△ 3	△ 33
10 見 付	4,550	8,349	4,212	4,137	12	10
11 星 ケ 丘	3,634	6,900	3,073	3,827	1	9
12 自 由 ケ 丘	3,561	7,123	3,241	3,882	1	△ 9
13 富 士 見 台	6,544	15,095	6,851	8,244	3	△ 3
14 宮 根	3,846	7,973	3,677	4,296	4	△ 15
15 千 代 田 橋	3,771	8,146	3,823	4,323	5	△ 17
千 種 区 計	89,687	165,371	80,230	85,141	91	18
R5. 6. 1	88,653	165,208	80,119	85,089	92	100
対 前 年 比	1034	163	111	52	△ 1	△ 82
名 古 屋 市	1,170,579	2,329,553	1,143,233	1,186,320	2,038	1,156
愛 知 県 (R6. 5. 1)	3,355,656	7,468,102	3,718,539	3,749,563	11,818	7,454

前月中の 増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	96	140	△ 44	1,009	947	62

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

千種区の年齢3区分別人口の概況

今回は千種区の年齢ごとの人口構成割合と、割合から導き出される年齢構成指数について見ていきます。

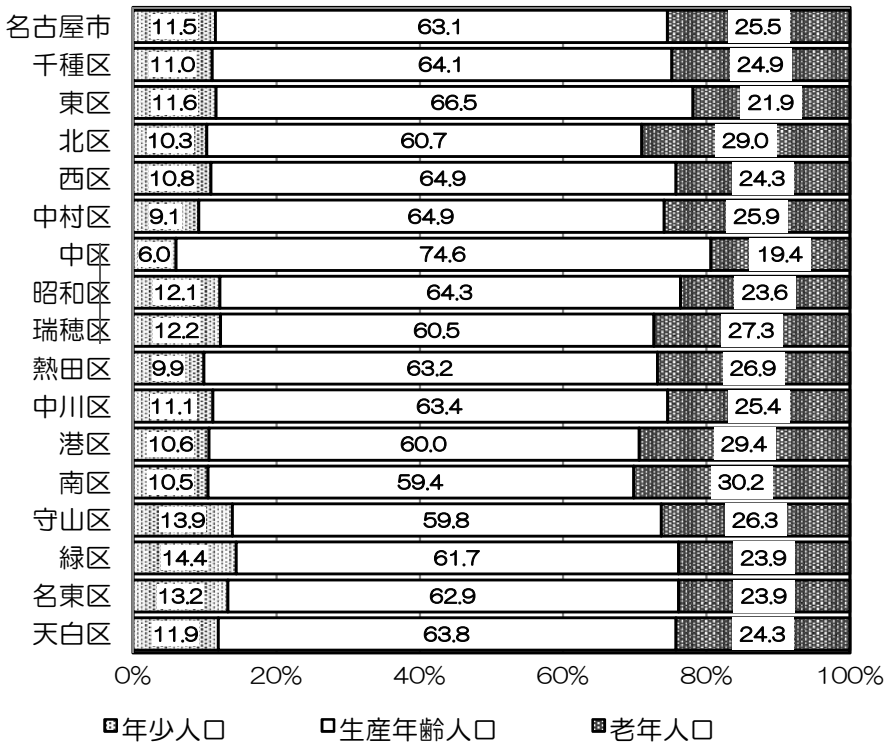


図1：区別年齢3区分別人口比率（令和5年10月1日現在）

まず、千種区の年少人口（15 歳未満）、生産年齢人口（15～64 歳）および老年人口（65 歳以上）の比率について見てみます（図1）。

名古屋市全体および各区の令和5年10月1日現在の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口比率は緑区が14.4%と最も高く、千種区は11.0%で16区中9位です。

生産年齢人口比率は中区が74.6%と最も高く、千種区は64.1%で16区中6位です。

老年人口比率は南区が30.2%と最も高く、千種区は24.9%で16区中9位です。

千種区の3区分別人口比率は名古屋市の比率とほぼ同じとなっています。

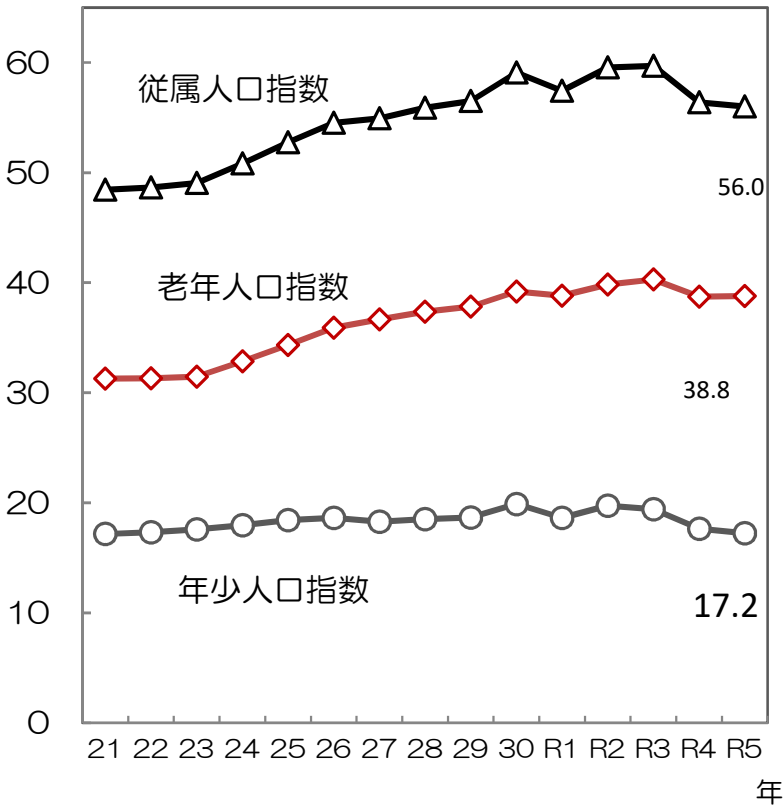


図2：千種区の年齢構成指数の推移（各年10月1日）

次に、千種区の年齢構成指数の推移を見てみます（図2）。年少人口指数および老年人口指数は、生産年齢人口100人が年少者または高齢者を何人支えるかを示すものです。また従属人口指数は、年少人口指数と老年人口指数を合計したものです。

千種区の令和5年の年少人口指数は17.2、老年人口指数は38.8で、16区中の高い方からそれぞれ11位と9位となっています。また、千種区の令和5年の従属人口指数は名古屋市全体（58.6）及び令和4年の千種区従属人口指数（56.3）を下回り56.0です。これは16区中高い方から11位（令和4年：10位）となっています。

千種区の従属人口指数の変動は、老年人口指数の影響を受けやすいことが図2より分かります。